



# 澄心

発行日 令和2年 8月 21日

発行 二本松市立安達中学校

二本松市油井字田向100番

53 - 2104 FAX53 - 2105

責任者 渡邊 健順

## 2学期スタート

17日(月)に2学期がスタートしました。今年は、例年にないとても短い夏休みでしたが、始業式には、生徒達の元気な姿が見られとても嬉しく感じました。式では、校長より2学期にむけて、元気を発信できる学校になるように頑張りましょうと話がありました。その後、各学年代表生徒による「夏休みの反省と2学期の抱負」の発表がありました。どの学年の代表の生徒もしっかりとした内容ですばらしい発表でした。

### 第1学期学校評価の結果と分析・考察をまとめました

1学期末に実施した学校評価(生徒・保護者・本校職員対象)の結果を集計し、2学期当初には評価結果に基づく分析や考察を全職員で行いました。今回お示しする数値データは、紙幅の制約もあり平均値のみとします。評価値のうち3.0以下のところは網掛けに、また3.4以上のところは下線を引き太枠で囲みました。今回の評価や分析・考察をもとに、2学期の教育活動をさらに充実させるよう、職員が一丸となって取り組みます。今後ともご支援・ご協力をお願いします。

( 評価値 4:「よくあてはまる」 3:「あてはまる」 2:「あまりあてはまらない」 1:「全くあてはまらない」の4段階)

質 問	評 価 値 平 均			分 析 ・ 考 察
	教師	保護者	生徒	
【知性】自ら学習する生徒 教師主導・説明偏重にならないよう、授業では、生徒の主体的な活動の場の設定に努めた。 (保護者 授業は生徒が自分(たち)で考えたり発表したりする活動を取り入れていると思う。)(生徒 自分で考えたり発表したり活動したりした。)	2.9	3.0	3.1	○ 新型コロナウイルス感染症予防のために、グループ学習や話し合い学習が困難なために、教師の自己評価は低くなったと思われる。また、臨時休業があり、進度の遅れが出てきたために進度を速めるために主体的な活動の場面を設定しづかったことも考えられる。 今後は、感染予防に努め、グループ活動や話し合い活動を制限しながらも、問いを重視し、学習課題の設定や発問などの工夫をすることで、生徒たちの主体的な学びに結びつけたい。
生徒の学習意欲を喚起するため、ICTの活用や言語活動の充実など授業の工夫改善に努めた。(保護者 子どもは授業に意欲的に取り組んでいると思う。) (生徒 授業に意欲的に取り組んだ。)	3.1	3.1	<u>3.4</u>	○ 生徒自身は、授業については意欲的に取り組んでいると評価している。実際、意欲的に取り組んでいる生徒は多く、そのような生徒たちへ確かな学力をつけていく責任があることを、私たちはもう一度自覚しなければならない。
分かる授業づくりのため、生徒の実態に応じた授業の質的改善に努めた。(保護者 子どもは、授業は楽しく分かりやすいと感じていると思う。)(生徒 授業の内容はよく分かる。)	3.3	3.0	3.2	○ 新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休業で遅れた授業を取り戻すために、先生方は授業の内容を工夫して進めていた。休業中の生徒の学習状況にあわせ、補充学習なども行ったが、今後は、生徒の学習状況を正しく捉えるとともに個に応じた指導を一層充実させ、分かる授業づくりをしていかなければならない。
家庭学習に習慣化を図るための指導に努めた。 (保護者 子どもは家庭学習によく励んでいる) (生徒 家庭学習に励んだ。)	3.3	3.2	3.2	○ 新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休業中は、家庭学習時間割をもとに家庭学習シートを活用して家庭学習に取り組みさせることができたことが教師の評価として現れている。保護者、生徒についても、臨時休業中の家庭学習の取組は、家庭学習シートなど学習課題が明確になっていたために取り組みやすく、また、補充学習も行ったために生徒自身の充実感につながったと思われる。
【健康】心身ともに健康な生徒 ○現地指導を心がけ、意欲的に部活動に取り組めるよう指導・支援に努めた。(保護者 子どもは意欲的に部活動に取り組んでいると思う。)(生徒 部活動に意欲的に取り組んだ。)	3.3	<u>3.4</u>	<u>3.6</u>	○ 部活動休止明け、生徒たちが熱心に部活動に取り組めたことが評価からうかがえる。また、運動部活動交流会が実施され、目標を持った取組ができたことも評価につながっていると思われる。けがや熱中症、落雷事故等の予防については、教師が常に警戒を怠らず、生徒に声をかけて注意を喚起している。今後も継続したい。
○健康に留意した生活を送ることができるよう指導・支援に努めた。 (保護者 子どもは健康に留意して生活していると思う。) (生徒 健康に留意して生活できた。)	<u>3.6</u>	3.2	<u>3.4</u>	○ 保護者は、臨時休業中の生徒の家庭での過ごし方で規則正しい生活を送るといった点で心配な面がありつつも、感染予防に関してはマスクや検温などの日常的な取組が習慣化されていることに対する評価であると思われる。検温やマスク、ソーシャルディスタンスなど新しい生活様式を意識することが多く、そういった点で自分なりによく取り組んでいたという評価になっていると思われる。
○生徒に寄りそうことを心がけ、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう努めた。 (保護者 子どもは安心して学校に通っていると思う。) (生徒 安心して学校生活を送ることができた。)	<u>3.7</u>	<u>3.4</u>	<u>3.5</u>	○ 三者とも評価値が高かった。新型コロナウイルス感染の不安の中、「教師が常に生徒とともにいる」という姿勢が生徒及び保護者の高評価につながっているものと思われる。教師も、コロナ不安の中にいる生徒たちをしっかりとケアしていこうと意識していたということの表れである。
○防火診断や安全点検を確実にを行い、生徒が安全な学校生活をおくることができるよう努めた。 (保護者 学校の施設設備などの環境は整えられていると思う。)(生徒 安全を心がけて生活できた。)	<u>3.6</u>	3.3	<u>3.6</u>	○ 防火診断、安全点検を定期的に行うことができたことや、修繕箇所の速やかな修繕を心がけたことが高評価になったと思われる。今後も早めの修理を心がけたい。保護者が若干伸び悩んだのは、校舎の老朽化が主因と思われる。校舎の老朽化は仕方ないことであるが、ていねいに、大切に使用する雰囲気づくりを大切にしていきたい。

<p>【自主自律】自主自律に努める生徒</p> <p>○生徒が自ら考え、判断して行動することを感じることができる場を設定し、指導に当たった。 (保護者 子どもは自分で考え、判断して行動しているほうだと思う。) (生徒 自分で考え、判断して行動するよう心がけた。)</p>	3.0	3.1	3.5	<p>○ 生徒の評価が高かった反面、教師の評価は低かった。生徒に自ら考えさせ、判断させ、行動させるためには、それを実現させるための指導支援は不可欠であり、教育的戦略なしに生徒に「お任せ」というわけにはいかない。教師側の周到な指導計画立案、学年会や諸委員会など様々な場面における指導実践と客観的な評価・改善が重要である。</p>
<p>○誘惑に負けず、正しい判断で生活することの大切さについて指導した。 (保護者 子どもは誘惑に負けず正しい判断で生活していると思う。) (生徒 誘惑に負けず正しい判断で生活するよう心がけた。)</p>	3.4	3.0	3.3	<p>○ 教師、生徒は学校生活の様子からの評価で、学校生活において生徒たちは正しい判断のもと生活を送っていたことからの評価である。保護者は、家庭での生徒の様子からの評価であり、保護者の生徒に対する期待、要望と実際の生徒の生活との差からの評価となっていると思われる。生徒を取り巻く誘惑は、非行などの反社会的な逸脱行為というよりは、ゲームや SNS 等である。家庭生活で、個人の判断により決めなくてはならないことであり、その点で、教師と保護者の評価の違いがあると思われる。</p>
<p>○生徒が生徒会や学級の係活動に意欲的かつ積極的に取り組めるよう指導・支援に努めた。 (保護者 家庭でのお手伝いをやっている方だと思う。) (生徒 生徒会や学級の係活動に意欲的に取り組んだ。)</p>	3.3	2.7	3.4	<p>○ 臨時休業明けから学校生活の正常化に向けて生徒自身も生徒会活動を中心によく取り組んできた結果が自己評価に現れたと思われる。教師もコロナ禍の中元気のある学校づくりに向けて取り組んできた結果である。今後も、活気あふれる学校づくりを進めていきたい。一方、家庭で生徒は、保護者の期待ほどはお手伝いをしていないことが窺えた。今後は、生徒たちの学校での頑張りを実生活でも生かせるような指導、働きかけをしていく必要もある。</p>
<p>○諦めずに努力することの大切さの指導に努めるとともにやり遂げた際は賞賛を怠らなかった。 (保護者 子どもは諦めずに努力するほうだと思う。)(生徒 何事も最後まで諦めずにやり通すよう努力した。)</p>	3.4	2.9	3.4	<p>○ 教師と生徒の評価値のほうが高かった。保護者が幾分低く評価した理由は様々あるが、親の子に対する期待値の高さが期待と実態とのギャップとして認識されているのかもしれない。理由がいずれにせよ、粘り強く物事に取り組む姿勢は最も大切なものであり、今後さらに向上させたい。</p>
<p>【品位】品位のある生徒</p> <p>○生徒が進んで明るい挨拶を行うよう指導するとともに、自らも率先して挨拶した。 (保護者 子どもは自分から進んで明るい挨拶ができる。)(生徒 自分から進んで明るい挨拶を実践できた。)</p>	3.7	3.1	3.5	<p>○ 教師・生徒と保護者の評価の差が大きい項目である。生徒たちの評価対象の場面は学校生活であることから、学校生活と家庭生活での生徒の姿の違いや親が子に対する期待感からこのような差が生まれていると思われる。学校できていることを、家庭や実社会でも実践できるようにステージをあげた指導をする必要があると思われる。</p>
<p>○返事や礼など、礼儀正しい生活について指導に努め、優れた場では、賞賛・激励を行った。(保護者 子どもは返事や礼など礼儀正しいほうである。)(生徒 返事や礼など、礼儀正しい生活を心がけた。)</p>	3.5	3.0	3.6	<p>○ 上記の質問と似た質問項目であり、結果もほぼ同様の評価値となった。挨拶、返事、礼などは、共通性の高い大切な生活習慣であるので、今後も指導していきたい。高校受験に向けての面接指導が本格化する3年生になってから指導を強化する必要のないよう、「入学時から、そして普段からきちんとできている」生徒個人及び学校全体としての校風を築きあげていく必要がある。</p>
<p>○諸活動においては、友だちと協力して活動することができた。(保護者 子どもは友達と仲が良いほうだと思う。)(生徒 諸活動においては友達と協力して活動できた。)</p>	3.4	3.3	3.6	<p>○ 生徒の評価値が高いことは良いことである。今後はさらに、「どうすればよりよい協力ができるか?」「意見が合わないとき、どのようにして話し合いを進めればよいのか?」など、教師が指導することはもちろん、生徒自身にも考えさせ、生徒の自主的な取組を促したい。</p>
<p>○道徳の授業をはじめ、学校生活全体を通じて思いやりの心の涵養に努めた。(保護者 子どもは思いやりの心を有していると思う。)(生徒 思いやりの心で人と接するよう心がけた。)</p>	3.2	3.2	3.6	<p>○ 教師は、「特別の教科道徳」としての道徳の授業も定着してきており、授業や学校生活を通して思いやりの心の涵養に努めることができた。生徒たちも相手を不快にさせないような言葉を慎重に用いるよう努力している。これからも、教師自身がよきモデルとして、時と場に応じた温かい言葉を発しているようにしなければならない。</p>
<p>【その他】</p> <p>○生徒の笑顔が絶えない充実した学校(学級)生活が送れるよう、温もりのあるふれあいに努めた (保護者 子どもは学校に行くのが楽しいと感じていると思う。)(生徒 学校生活及び学級生活は楽しく充実していた。)</p>	3.4	3.2	3.5	<p>○ 新型コロナウイルス感染症予防という現状の中、生徒たちの心のケアを第一に考え実践してきたことが、生徒や保護者からの評価に現れたことはうれしい限りである。今後も生徒ファーストを念頭に、一人一人の生徒が安心・安全で楽しい学校生活が送れるように努めていきたい。</p>
<p>○適宜適切な言葉かけなどを行い、生徒の心情に思いを寄せた生徒指導に努めた。 (保護者 学校は悩みなどの相談がしやすいほうだと思う。) (生徒 先生は声をかけてくれ、悩みなどの相談がしやすいと感じている。)</p>	3.4	3.0	3.3	<p>○ 新型コロナウイルス感染症予防という現状の中で、生徒たちの心のケアを第一に考え実践してきたことで教師は丁寧な生徒指導に当たることができたという評価である。保護者の評価は、教師、生徒とくらべ低くはなっているものの、3.0と昨年度よりは高くなっている。今後も、新型コロナウイルス感染症の心配な状況が続いていく中、生徒に寄り添った相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。</p>
<p>○いじめは絶対許さないという姿勢を堅持して指導に当たった。(保護者 学校はいじめの根絶、問題行動等の未然防止に努めていると思う。) (生徒 安達中はいじめのない学校だと思っている。)</p>	3.7	3.1	3.3	<p>○ 生徒たちの交友関係は刻々と変化しているため、定期的なアンケート調査、チャンス相談、そして何といても日頃からの生徒と教師との信頼関係構築がいじめの最大の抑止力になるという認識をもって今後も指導にあたっていきたい。</p>
<p>○安達中生としての自覚の涵養に努めた。 (生徒 安達中生としての自覚をもって生活した。)</p>	3.4		3.5	<p>○ 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のある中、元気あふれる学校づくりの一環として、生徒会を中心として、キャッチコピーやイメージキャラクターの創作をしたことも安達中生としての意識を高めることになったと思われる。</p>
<p>○交通事故の絶無を期した指導を適宜行った。(保護者 安全な自転車の運転等交通安全のための啓蒙活動を適切に行っていると思う。)(生徒 交通安全、交通マナーの向上を心がけ、安全な自転車運転を心がけた。)</p>	3.5	3.2	3.5	<p>○ 今年度、自転車運転安全モデル校に指定されたことからの質問項目であったが、交通安全教室や毎月の交通安全指導の実施もあり、全体的に高評価となった。今後もモデル校にふさわしく、交通安全、交通事故防止に向けた取組を継続していきたい。</p>
<p>○新型コロナウイルス感染症予防への対策を共通理解のもと組織的に行うことができた。(保護者 家庭においても感染予防に努めていると思う。)(生徒 新型コロナウイルス感染予防のため自分がやるべきことはしっかり行った。)</p>	3.7	3.3	3.6	<p>○ 全職員共通認識のもと感染症予防に努めてきた結果である。消毒や検温など習慣化するまでは働きかけ等大変なこともあったが、習慣化されてきたからは、生徒自身の自覚もでてこのような評価になったと思われる。各家庭においても予防に努めていることがわかった。今後も油断できない状況にあるので、継続して取り組んでいきたい。</p>

